

仲間を支える力も大きく成長

原 賢志

12日の3・4時間目に、6年生は加子母防災士会の指導の下、炊き出しの練習をしました。これは、6年生の総合的な学習の時間に行っている活動の一つで、「加子母での幸せな生活(防災・福祉)を考える」ための一つの活動でした。災害が発生した時を想定して実際に炊き出しをしました。

「炊き出し」というと、大きな鍋でごはんを作るイメージでしたが、防災士会で教えてくださったのは、ロケットストーブを使った活動で、実に現実的で、校舎回りの枯れた木や小枝を拾い集め、それを燃料に湯を沸かし、ご飯とカレーを作るものでした。

グループごとに、火をつけ小枝をくべる人、調理室で食材を切って袋に詰める人、役割分担を決めて活動していました。多くの児童が、初めての体験で、火を燃やすのに夢中になっていました。しかし、数人の児童は、次の活動を考えて鍋に水を汲みに行っていました。

何か物事を行うときには、中心となる活動があります。中心となる活動は見栄えもよく、活動も楽しいことが多いので、その活動に夢中になってしまいます。しかし、全員がその活動に関わってしまうと、次の活動がスムーズに進められずに困ってしまうことが多々あります。

6年生の中には、そのことが分かって、友達が中心となる活動を頑張っているのを横目で見て任せるとともに、自分は次の準備をして仲間を支えている子がいるのでした。おかげで、実にスムーズに活動が進みました。そして、できあがった、カレーをみんなでおいしく食べることができました。

片付けの時にも、早く食べ終わった児童が、ゴミ袋を手に持ち紙皿などを集めていました。進んで仲間を支える素敵な姿でした。

仲間を支える行動をするためには、全体を観察する力、支える力、思いやり(相手の立場で、うまくいくよう推測する力)が必要になります。6年生は、この4月からの4か月でたくさんのリーダーをやってきました。その中で培われたものでしょう。さすが、最高学年の姿です。

また、この活動を通して、6年生は災害時も含めて、いざという時には、自分が地域の役に立てるという自信をつけました。



<ロケットストーブで小枝を燃やす様子>



<炊き出しのカレーライスを食べる6年生>

◇夏休みの地域行事で斜めのつながりを・・・

10日には、小中子供会が開催され、夏休みの計画やラジオ体操の集合場所、危険箇所などの確認がされました。各地区では夏祭りなど様々な行事が計画されて、いよいよ夏休みとなります。子供たちが地域行事に参加することは、地域を知り、地域に愛着をもつよい機会となるとともに、地域の一員としての自覚を高める機会ともなります。さらに、地域行事には、地域の連帯感を深めるという地域おこしの意味合いもあります。

子供たちの人間関係として考えると、学校では学級の中で同級生との横のつながりが育っています。また、家庭も含めると、親子・先生・子供会など異年齢の中で上下関係のある縦のつながりも育っています。地域行事に参加することで、いろんな立場の大人の人と触れ合いますので、家族ではないけれど親身になってくれる年上の人との斜めのつながりができると言われています。(近年、この斜めのつながりの大切さが教育誌等で紹介されています。)

斜めのつながりが、子供たちの自己肯定感や心の安定、大人への憧れ、さらには自分の新たな可能性の発見にもつながると言われています。ぜひ、地域行事への積極的な参加をよろしくお願いいたします。

よりよい生活を目指し、考えて行動(表現)する 仲間とつながり、思いやりの心をもって生活する 自分に合った方法で挑戦し、根気よく続ける

